

総合科学技術会議 評価専門調査会
「気候変動問題対策二酸化炭素削減技術実証試験」
評価検討会(第1回)議事概要

日 時： 平成20年10月14日(火)10時～12時

場 所： 中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室(4階)

出席者： 中杉座長、奥村議員、薬師寺議員、田淵委員、本田委員
飯嶋委員、松橋委員

事務局： 岩橋審議官、天野参事官他

説明者： 経済産業省 産業技術環境局 環境ユニット 地球環境技術室長 三橋室
長、根岸室長補佐、中尾室長補佐、資源エネルギー庁 資源・燃料部 石
炭課 権藤課長補佐、矢野係長

議 事： 1. 評価検討会の調査・検討の進め方について
2. 研究開発内容の説明と質疑応答
3. 討議

(配布資料)

資料1-1 平成20年度における国家的に重要な研究開発の事前評価について
(案)

資料1-2 評価検討会運営要領(案)

資料2-1 総合科学技術会議評価専門調査会「気候変動問題対策二酸化炭素
削減技術実証試験」評価検討会(第1回)資料

資料2-2 経済産業省「平成21年度予算概算要求等に係る事前評価書」より抜粋
事前評価書

(参考資料)

参考1 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について

参考2 総合科学技術会議 評価専門調査会 名簿

(机上資料)

- 科学技術基本計画 (平成18年3月29日)
- 分野別推進戦略 (平成18年3月28日)
- 環境エネルギー技術革新計画 (平成20年5月19日)
- 低炭素社会づくり行動計画 (平成20年7月29日)
- 国の研究開発評価に関する大綱的指針 (平成17年3月29日)

議事概要：

1. 評価検討会の調査・検討の進め方について

検討のスケジュール、検討会の運営要領について、それぞれ案のとおりとすることとした。また、運営要領に基づき、座長より、審議内容の公表について提案、本検討会を評価者の自由な発言を確保するために非公開とし、会議資料と議事要旨を会合終了後に公表することについて委員の合意を得た。

2. 研究開発内容の説明と質疑応答

○ 研究開発の概要等の説明

期間、事業費、目的、科学技術基本計画における位置付け、実施内容、目標、年次計画、実施体制、推進体制、研究開発評価、関係施策との関係等について、経済産業省より資料2-1に基づいて説明があった。

○ 質疑応答

経済産業省の説明に対し質疑応答が行われた。主な項目を以下に示す。

- ①二酸化炭素回収貯留(CCS)の国際的状況とCCSの大規模実証を国内で実施する意義について、国外でCCSプロジェクトが進められる中、本実証試験のポイントは、大規模排出源からの二酸化炭素を帯水層に貯留することを、全行程をシステムとして国内で初めて実証。化石燃料に当面依存せざるを得ない状況において、国が責任を持って第1号を実証することが最大の眼目。
- ②本実証試験の具体的内容及び事業費について、各工程には種々の技術があるが、条件を具体的に想定して事業費を算出。実施地点が決定された後に、その諸条件に応じて見直し。
- ③実用化に向けたロードマップについて、現時点で経済的インセンティブが働かないCCSを国が最初の実証し、民間による本格導入までの道筋を明確にしておくべき
- ④最終年度の具体的な達成目標とそれに向けたロードマップが示されるべき
- ⑤CCS関連の他のプロジェクトとの関係について、RITEの長岡プロジェクト等で得られたモニタリング等の知見はどう活かされるか明確にしておくべき

3. 討議

経済産業省からの説明、および質疑応答を受けて、以下の観点より討議が行われた。

- CCS技術の実証試験の意義について
- 実証試験と具体的内容及び事業費と実施地点の諸条件との関係について
- 安全性確保や環境への影響防止の重要性について
- 経済産業省への追加説明依頼項目について